

No	名前	性別	年齢	病名	相談経路	入院になった理由	期間
1	A	女	83	アルツハイマー型認知症	家族	H24.9月から同居夫婦に対して「死ね、殺す」等の暴言がひどくなった。H24.11月以降同じ事を何度も言う、娘に「何百万とお金を貸している」などの話をするようになった。自宅で尿や便がたれている等、始末ができなくなっている様子もみられ、家族が旅行に行く間の心配もあり入院希望され、入院となる。	103
2	B	女	88	認知症	家族	不眠、怒りっぽさがあり、H24.12月から通院していた。デイサービス利用時に他の利用者への暴言などもあった。入院前日の夜、自宅窓より外出し裸足で歩いているところを警察に保護された。家族の介護疲れがあり入院となった。	248
3	C	男	60	血管性認知症	Y医療センター、家族	H24.11.6からイレウスと嘔吐でY医療センターに入院していた。12.11頃から「死にたい」と言い、階段から出ようとしたり2階の窓から出ようとするため目が離せなかった。心療内科の医師と相談しながら治療するも改善せず、妻も当院への転院を希望され入院となった。H25.4.6で退院となるが、妻は仕事をしており在宅での介護はできないと話をされ、再度入院となった。	146
4	D	女	64	若年性アルツハイマー型認知症	介護老人福祉施設 家族	H15より物忘れがみられるようになり徐々に悪化していき、H21.5月に大学附属病院精神科を受診した。H25.1.21に当院を初診。薬剤調整により過活動や興奮等は減ったが、診察時には不安な様子で疎通はほとんどとれない状態だった。夫と二人暮らしであり自宅での介護も限界となり、H25.7.5から介護老人福祉施設にロングショートを利用することになったが、翌日から他の入所者への暴力がみられ、施設では対応困難であり入院となった。	55
5	E	男	73	混合型認知症	家族	H24頃からつじつまの合わない事を言うようになり、気分のむらも激しくなった。7月頃からは日中ずっと探し物をするようになり、夜には怒る事が多くなった。妻に「男がいる」「お金を使って遊んでいる」と言うようになり、実際にはないが訂正できなかった。妻への暴力もあり入院となる。	387
6	F	男	85	アルツハイマー型認知症	家族	H14に妻が亡くなってから1人暮らし。H22年頃より徐々に身の回りのことができなくなってきた。部屋の窓を閉め切ったり、夏でもこたつを出したり、物の置き場がわからなくなったりしていた。食事用意等は家族がして、週に4回デイサービス利用していた。H24.8月に当院初診するが、服薬管理できないとのことで通院はしなかった。その後も症状は進行し、家族の介護も限界になり入院となった。	233
7	G	男	62	アルコール性認知症	隣町市民病院、家族	H20.1月より自営の仕事を辞めた。無職になってからは朝から飲酒を継続するようになる。H21.1.30に妻の提案で断酒を始めたが、31日からうろうろと動き回り、H21.2.1からは裸足で外を歩き回る等の離脱症状が出て隣町市民病院に入院し、当院へ転院となる。	1636
8	H	女	70	アルツハイマー型認知症	老人保健施設	60歳頃から認知症がみられ、H21にアルツハイマー型認知症と診断された。認知症が進み、H25.3.26より老人保健施設に入所した。同年6.4、せん妄、徘徊、大小便失禁、不眠を主訴に当院初診。7.2より誤嚥性肺炎で7.6～7.9まで一般病院に入院し誤嚥性肺炎は治癒するが、老人保健施設は再度の受け入れは困難とのことで当院入院となる。	54
9	I	女	83	アルツハイマー型認知症、混合型認知症	市民病院	H25.6.7自転車で転倒し、左大腿骨頸部内側骨折で市民病院病院(整形)に入院するが、不穏症状やもの忘れの状態がひどく、睡眠も1時間程しかとれていなかった。入院中、精神科Drの往診を受けたが症状の改善がなく、せん妄状態の治療のため当院へ転院となる。	53
10	J	男	57	アルツハイマー型認知症	家族	3.4か月前から感情の浮き沈みが激しくなり昼夜問わず暴力的な言動が出たり、物を投げたりすることがあった。母と2人暮らしだったが、物にあたることが多く、く自宅でみれない状態のため当院を受診し、入院となる。	257